



第 62 回 全日本学生選手権トラック自転車競技大会



2022 年 7 月 2 日(土)～3 日(日) 静岡県伊豆市 日本 CSC 伊豆ベロドローム (周長 250m)

主催：日本学生自転車競技連盟 共催：公益財団法人日本自転車競技連盟
 協力：一般財団法人日本サイクルスポーツセンター
 協賛：公益財団法人JKA 公益社団法人全国競輪施行者協議会 一般社団法人日本競輪選手会
 井上ゴム工業株式会社 株式会社パールイズミ WIN AND WIN CO. LTD.(WIAWIS)
 株式会社クレマーージャパン

Communique No.4-1
 2022 年 6 月 28 日
 (PCP) 近嵐智加良

1. コミッセルパネルは下記の通り

近嵐智加良 (PCP)、炭竈純一、倉田達樹、村田隆宣

2. 2021 年 10 月 18 日版 UCI 規則および 大会特別規則を適用

- ・バンチレース (ポイントレース・スクラッチ) は、事故・落車時にメカニック等のみがコミッセルの許可を受けてトラック セーフティーゾーンに入ることができる。各チーム 1 名をサポートとして、バックストレートのインフィールドで待機可能。セーフティーゾーンの待機は認められない。
- ・待機できるのは、チームスタッフ登録の ID カード着用者のみ。

(IP を除き、レース中にセーフティーゾーンから指示は禁止)

3. 競技場 インフィールド内への入場

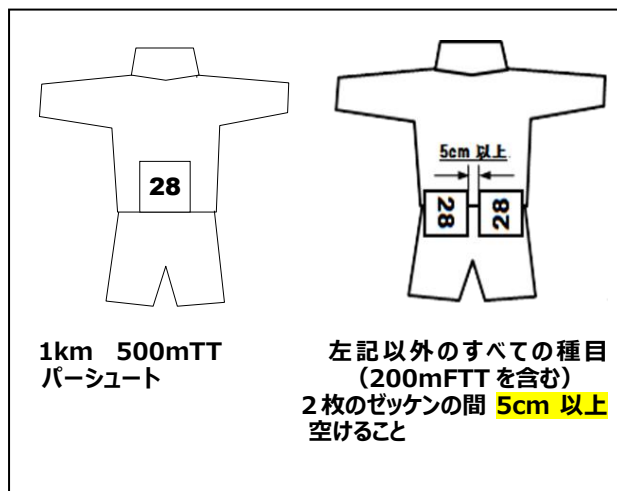
- ・ID カード着用者以外、競技場インフィールド内に入る事はできない。
- ・チームスタッフの行動について、チーム監督は責任を負う。
- ・エントリー用紙に記された、感染対策責任者はチーム員の感染対策防止に関する行動について、責任を負う。

4. <ポイントレース・スクラッチ> 専用ゼッケン・フレーム・プレート取付け

- ・受付時に配布するゼッケンとは別に、ポイントレースとスクラッチは、専用ゼッケン (プログラムのポイントレース頁とスクラッチ頁に記載のゼッケン番号)。予選、決勝の各レース開始前に配布、場内アナウンスに注意し、取りに来ること。レース参加選手は、番号間違いが無いよう自分自身で確認の上、審判が視認できる、正しい位置に安全ピンでしっかり取付ける。
- フレーム・プレートは、フレーム前方の左右中央 (中央が無理なら 左側) にテープ等で取付け。

5. ゼッケン取付け

- ・安全ピン、フレーム・プレート(ポイントレース・スクラッチ)の結束バンド等は各自で用意。
- ・取付け位置は右図。
乗車姿勢で、シワがよらない様に装着。
- ※ポディーナンバー、フレーム・プレートは回収しない。
各自必ず持ち帰る。会場での破棄は禁止。



この大会は競輪の補助を受けて実施いたします。 <https://www.jicf.info/> (公式のレース結果はホームページへ)
<http://hojo.keirin-autorace.or.jp/>





第62回 全日本学生選手権トラック自転車競技大会



2022年7月2日(土)～3日(日) 静岡県伊豆市 日本CSC伊豆ベロドローム(周長250m)

主催: 日本学生自転車競技連盟 共催: 公益財団法人日本自転車競技連盟
協力: 一般財団法人日本サイクルスポーツセンター
協賛: 公益財団法人JKA 公益社団法人全国競輪施行者協議会 一般社団法人日本競輪選手会
井上ゴム工業株式会社 株式会社パールイズミ WIN AND WIN CO. LTD.(WIAWIS)
株式会社クレマーージャパン

Communique No. 4-2

6. < ケイリン > フレーム・プレート 取り付け

- ・フィニッシュ時の着順等の視認性を上げ、より正確な判定ができるよう、ゼッケンの他にフレーム・プレートを装着。受付時にゼッケンと一緒に配布。
フレーム前方の左右中央(中央が無理なら左側)にテープ等で取付け。
(ゼッケンと同じ番号を付ける)

7. 招集

- ・招集は行わない。欠場はゼッケン配布時に受付に届け出る。

8. コーチ 及び チームからの指示・応援

- ・トラック セーフティーゾーンでは、トランジスタ・メガフォンの使用を認める。大声での指示は行わない。
- ・セーフティーゾーンで、タイム等通知ができるコーチは、IPの1名のみ。IP以外は原則入ることができない。
- ・フェンス外周からのメガフォン・肉声応援は認めない。
- ・フェンス外周からの見守りは、拍手にて対応。

9. タイム種目の計時

- ・タイム計測種目は電子計時。出走順につき、速やかにペダル位置を合わせて、発走担当の役員へ自転車を渡す。ウォーミングアップ、クールダウンの走行は、インフィールドのみ。
フィニッシュ後、速やかにトラック走路からインフィールドに入ること。

10. バイクチェック

- ・感染防止として、レース前のバイクチェックは行わず、セルフチェックとする。
- ・入賞者・ランダム抽出者を対象に、各レース終了後すぐにコミッセルが個別にバイクチェックを行うことがある。該当選手はアナウンス等に注意し、すみやかにバイクチェックに集合。
- ・事後検査でルール違反が判明した場合、失格を含むペナルティが課される可能性がある。
- ・バイク寸法に不安がある場合、寸法規程ぎりぎりのポジショニングとしている場合、バイクチェック・ジグによる事前確認を強く推奨する。「他の大会ではこれで出走を許可されている」という主張は受け入れられない。

11. レース出場選手の義務

競技の進行状況の把握に努め、次走者は前のレース終了【5分前】までにスタート地点付近で待機する。遅れた選手、他の選手と同時にスタート位置に付けない選手は、レースから除外する他、罰則の対象となる。



この大会は競輪の補助を受けて実施いたします。 <https://www.jicf.info/> (公式のレース結果はホームページへ)
<http://hojo.keirin-autorace.or.jp/>





第 62 回 全日本学生選手権トラック自転車競技大会



2022 年 7 月 2 日(土)～3 日(日) 静岡県伊豆市 日本 CSC 伊豆ベロドローム (周長 250m)

主催: 日本学生自転車競技連盟 共催: 公益財団法人日本自転車競技連盟

協力: 一般財団法人日本サイクルスポーツセンター

協賛: 公益財団法人 JKA 公益社団法人全国競輪施行者協議会 一般社団法人日本競輪選手会
井上ゴム工業株式会社 株式会社パールイズミ WIN AND WIN CO. LTD.(WIAWIS)
株式会社クレマーージャパン

Communique No.4-3

13. 各チームからの必要ホルダー

- ・男女 スプリント
- ・タンDEM
- ・ケイリン
- ・ポイントレース (内側スタート)
- ・マディソン (内側スタート)
- ・男女 スクラッチ (内側スタート)

【 各チームでホルダーを用意 】 ホルダーは、I Dカード着用者に限る。

14. その他

- ・ハンドルバー、アタッチメントバー 全ての端面は、バーエンドキャップを装着。
- ・板張り 250m 走路の低速走行は落車の危険あり。
- ・スプリンターレーン走行時、コーナー入り口・出口において、バンク角におけるハンドル操作に影響がある、ため注意されたい。

※日本学生自転車競技連盟 JICF 大会開催時ウイルス感染防止対策ガイドラインから抜粋

・スタート前

- ・スタートまでマスク着用 (インフィールドに入る直前まで)
- ・フィジカル・ディスタンス 2m (min.1m) 確保

・レース中

- ・選手のフェイスシールド、マスクの着用は容認する (但し熱中症、呼吸困難に注意)
- ・走行中の選手以外のスタッフはマスクの着用を原則として義務づける。
ただし高温・多湿時、フィジカル・ディスタンス 2m 以上確保されている場合はその限りでない。
- ・眼鏡、サングラス、その他アイウェア等を着用し裸眼とならないことを強く推奨する。

・フィニッシュ後

- ・インフィールド内でのクールダウン時、フィニッシュ直後を除きマスクを着用する。
- ・自らが使用したチームピットは、自らが持参した用品により清掃・消毒を行って撤収する。
- ・ゴミは各自持ち帰る。

以上



この大会は競輪の補助を受けて実施いたします。 <https://www.jicf.info/> (公式のレース結果はホームページへ)
<http://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

